

プラズマ・核融合学会誌

第86巻第4号

2010年4月

解説	流れのある平衡・安定性理論の課題	吉田 善章	209
特集	幅広いアプローチ計画の概観と展望		
	1. はじめに	奥村 義和	220
	2. 幅広いアプローチ (BA) 活動の概要	奥村 義和, 大平 茂	221
	3. 国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計活動		
 木村 晴行, 杉本 昌義, 前原 直, 高橋 博樹, 大平 茂, 久保 隆司, 若井 栄一, 中村 博雄, 竹内 浩		223
	4. 国際核融合エネルギー研究センター事業		
 荒木 政則, 林 君夫, 飛田 健次, 西谷 健夫, 谷川 博康, 野澤 貴史, 山西 敏彦, 中道 勝, 星野 毅, 小関 隆久, 石井 康友		231
	5. サテライトトカマク装置 (JT-60SA)	鎌田 裕	240
	6. まとめ	大平 茂	247
講座	大量トリチウム取り扱い技術開発30年の成果と今後の課題		
	3. 大量トリチウムの取り扱いに関わる研究成果 (2)		
	—核融合炉燃料システムの構築に向けて, 日米協力の進展—		
 河村 繕範, 中村 博文, 岩井 保則, 奥野 健二		250
Plasma and Fusion Research 掲載論文アブストラクト			257
インフォメーション			258
	幅広いアプローチ活動だより(23)		
Plasma & Fusion Calendar			259
本会記事			261
	第8回核融合エネルギー連合講演会プログラム/広報委員会だより: 第2回おもしろ科学教室での広報活動/専門委員会だより: 第1回プラズマ支援燃焼研究会開催報告・「プラズマ・バイオ融合科学への新展開」第2回委員会: 若手ディスカッション/専門委員会応募に対する採択の結果/学会賞候補者の募集について/一家に1枚未来をつくるプラズマ		

表紙の絵

永久四重極磁石を3台用いたレーザー駆動型陽子線の収束・発散実験において、汎用の放射線輸送計算コード (PHITS) が解析のために使われた。固体飛跡検出器 (CR-39) で計測された収束ビーム形状は、このコードの計算結果とほぼ一致し、このコードにてレーザー駆動型陽子ビームの輸送と検出器表面での物理現象まで、一括でシミュレーション可能であることが明らかにされた。(Hironao SAKAKI *et al.*, Plasma and Fusion Research Vol.5, 009 (2010) <http://www.jspf.or.jp/PFR/>)

【複写をされる方へ】本学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しています。本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けてください。但し、企業等法人による社内利用目的複写については、当該企業等法人が社団法人日本複写権センター(社)学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体)と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はありません(社外頒布用の複写については許諾が必要です)。

権利委託先: 一般社団法人学術著作権協会 〒107-0052東京都港区赤坂9-6-41乃木坂ビル 3F Tel: 03-3475-5618 E-mail: info@jaacc.jp

複写以外の許諾(著作物の引用、転載、翻訳等)に関しては、(社)学術著作権協会に委託しておりません。直接当学会へお問い合わせください。